

a 学校教育目標	夢を持ち果敢に挑戦し、次代を担う生徒の育成	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命) 社会のために役立とうとする志を抱く生徒の育成 【ビジョン】(自校の将来像) 知・徳・体のバランスのとれた力を身に付け、郷土から愛される生徒の通う学校
----------	-----------------------	----------------------	--

評価計画				自己評価					改善方針		学校関係者評価			
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方針	l 評価			m コメント
					h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ	
確かな学力	自ら学び仲間と協働して学習できる生徒の育成	○思考力・判断力・表現力等の育成をめざした授業改善 ○家庭学習の習慣化と授業への活用	学校評価アンケートの肯定的な回答率 ※授業がよくわかる／家庭学習の項目「1,3,4」	90%	90.1% 89.4% 65.3%	90.7%	B	・授業がよくわかるに関しては、目標値は超えているが、昨年度10月より約4ポイント下回っている。 ・家庭学習については、約90%の生徒が課題は提出しているが、復習等の家庭学習の充実、目標値を大幅に下回っている。	・管理職からの指導や1人1授業研究での取組を基に、日々の授業改善を行っている。 ・家庭学習の取組について、研究部を中心に具体的な取組等を協議していき、方向性を考えていく。	○			コロナ禍により学習意欲の低下が心配されるが、焦らず取り組んでもらいたい。 授業での「深い学びにつながるか」については、効果的な方法の開発が必要であるとする。	
			学校評価アンケートの肯定的な回答率 ※ICT機器の項目「11」	90%	93.8%	104.2%	A	・目標値の90%を超える93.8%の生徒が肯定的な回答をしている。	・授業だけでなく、家庭学習で使用したり等、効率的に活用することで生徒に基礎学力をつける取組をしていく。	○				
			学校評価アンケートの肯定的な回答率 ※主体的な場面の項目「6,7」	70%	85.8% 63.1%	106.4%	A	・目標値を大きく上回り、85.8%の生徒が肯定的な回答をしている。 ・「学習分析事業」や「探究的な学習の在り方に関する協議会」などの研修内容を教職員と共有し、具体的な改善案を練り合い、実践する取組の成果であると捉える。	・今後も、協議会等と示された改善案や取組の方向性を教職員と共有したり、日々の活動から生徒のつまずきや成長を見取ったりすることで改善していく。	○				
豊かな心・健やかな体	人に愛される生徒の育成	○生徒指導・教育相談活動の推進 ○生活四訓の徹底 ○ディリーの取組やいじめアンケートの実施による状況把握 ○SC,SSWを含めた組織的な対応	学校評価アンケートの肯定的な回答率 ※自らあいさつ「5」 不登校の人数	80%	74.7%	93.4%	B	・挨拶の数値は、昨年度10月と比較して約10ポイント上昇している。 ・不登校生徒数は14名と昨年度より増加している。ただし、各担任の取組により、欠席日数が30日以上の子供も昨年度より改善されているケースもある。	・生徒会活動として取り組んでいる。部活動ごとのあいさつ運動の実施を継続して行っていく。また、継続のみならず新たな取組を考え実施していく。 ・今後もSC,SSWを含めた組織的な対応を継続して行っていく。	○			学校全体、生徒、教室の雰囲気明るく、日々の取組の成果であると考えられる。「挨拶」の意味を理解させることが大切であり、人と人とのつながりが生まれ、自分が認められ、そして他人を認められることであることを知ってもらいたい。	
			学校評価アンケートの肯定的な回答率 ※主体的な場面の項目「12,13」	90%	79.2% 89.1%	93.6%	B	・「道徳の時間が好き」については、昨年度10月と比較して約3ポイント下回っている。 ・「道徳はためになる」については、おおむね9割の生徒が道徳の授業の必要性を実感しているものの、昨年度に比べ約5ポイント下回っている。	・各学年の道徳担当と連携し、担任個人の負担にならないよう、学年間で教材研究を進める。 ・生徒が意欲的に道徳の授業に参加できるよう、導入の工夫等、授業改善を行う。	○				
			学校評価アンケートの肯定的な回答率 ※主体的な場面の項目「7,8」	90%	91.4%	101.6%	A	・「委員会、係の仕事等に責任を持って取り組み達成感を感じている」「学校行事等に一生懸命取り組み達成感を感じている」とともに、目標値90%を超える91.4%の生徒が肯定的な回答をしている。 ・「委員会、係活動」について、昨年度10月と比較して約1ポイント上昇し、「学校行事」については肯定的な回答が90%を超えているものの、昨年度10月より約2ポイント下回っている。	・生徒会役員・委員長と担当教員が連携を密に取ることで、より充実した活動を目指す。 ・リーダーを中心に、生徒主体で行事を進められたことが、一体感や達成感につながったと考えられる。引き続き、生徒主体で行事が進められるよう指導をしていく。	○				
働き方改革の推進	生徒と向き合う時間の確保	○業務のスクラップ&ビルドによる業務改善 ○週に1日5時間授業の設定と定時退校日の設定	学校評価アンケートの肯定的な回答率 ※教職員の業務改善の項目「8」	90%	80.0%	88.9%	B	・「少しでも早く退校できるように業務改善に努めている」というアンケートに肯定的に答えた教職員の割合は80.0%であった。 ・月曜5時間の取組や定時退校日については、業務の都合により実行できない日もあるが、全職員が意識して業務にあたる事ができている。	・保健生委員会で、見直すことができる業務について意見を出し合い、出来ることから実行していく。 ・定時退校日に早く退校できるように、日頃から意識して業務の計画を立てるようにする。	○			業務改善については、スクラップを取り上げて取り組んでいることが評価できる。先生方一人一人の意識が更に高まるように、取組を進めていってもらいたい。	
			在籍時間60時間以内の者の割合	前年度比増	68.1%	119.1%	A	・勤務時間外の在籍時間が60時間以内である者の割合は、昨年度が57.2%、今年度は5月間でのべ135人中92人、68.1%であった。 ・6月において、教育実習や体育大会、修学旅行、定期試験作成など、多くの業務が重なったため長時間勤務となる状況が見られた。	・学校行事などで今年度取り組んだことについては、要項の修正等を行い、次年度のフォルダに保存しておくことで業務の効率化を図る。	○				

[j:自己評価 評価]
A: 100≦(目標達成) B: 80≦(ほぼ達成)<100
C: 60≦(もう少し)<80 D: (できていない)<60

[l:学校関係者評価 評価]
イ:自己評価は適正である。ロ:自己評価は適正でない。
ハ:分からない。